



**UNIVERSITÉ  
DE GENÈVE**

FACULTÉ DES LETTRES

**EXAMENS D'ADMISSION  
2006**

**DEUXIÈME EXAMEN ÉCRIT: VERSION**

Faites une **traduction en français** du texte japonais ci-joint.

Vous disposez d'un dictionnaire japonais/français et d'un dictionnaire de français fournis par la Faculté.

**La Faculté fournit les dictionnaires.  
Vous n'êtes pas autorisé(e) à apporter votre dictionnaire personnel à l'examen.**

## 三四郎

うとくとして眼が覺めると女は何時の間に  
か、隣の爺さんと話を始めてゐる。此爺さんは  
慥かに前の前の驛から乗つた田舎者である。發  
車間際に頓狂な聲を出して、馳け込んで來て、  
いきなり肌を抜いだと思つたら脊中に御灸の痕  
が一杯あつたので、三四郎の記憶に残つてゐる。  
爺さんが汗を拭いて、肌を入れて、女の隣りに  
腰を懸けた迄よく注意して見てゐた位である。

女とは京都からの相乗である。乗つた時から  
三四郎の眼に着いた。第一色が黒い。三四郎は  
九州から山陽線に移つて、段々京大阪へ近付い  
てくるうちに、女の色が次第に白くなるので何  
時の間にか故郷を遠退く様な憐れを感じてゐた。  
それで此女が車室に這入つて來た時は、何とな  
く異性の味方を得た心持がした。此女の色は實  
際九州色であつた。

三輪田の御光さんと同じ色である。國を立つ  
間際迄は、お光さんは、うるさい女であつた。  
傍を離れるのが大いに難有かつた。けれども、  
斯うして見ると、御光さんの様なのも決して悪

くはない。

唯顔立から云ふと、此女の方が餘程上等であ  
る。口に締りがある。眼が判明してゐる。額が  
御光さんの様にだつ廣くない。何となく好い  
心持に出來上つてゐる。それで三四郎は五分に  
一度位は眼を上げて女の方を見てゐた。時々  
女と自分の眼が行き中る事もあつた。爺さんが  
女の隣へ腰を掛けた時などは、尤も注意して、  
出來る丈長い間、女の様子を見てゐた。其時女  
はにこりと笑つて、さあ御掛と云つて爺さん  
席を譲つてゐた。夫からしばらくして、三四郎  
は眠くなつて寐て仕舞つたのである。

其寐てゐる間に女と爺さんは懇意になつて話  
を始めたものと見える。眼を開けた三四郎は黙  
つて二人の話を聞いて居た。女はこんな事を云  
ふ。

小供の玩具は矢張廣島より京都の方が安くつ  
て善いものがある。京都で一寸用があつて下り  
た序に、蛸薬師の傍で玩具を買つて來た。久し  
振で國へ歸つて小供に逢ふのは嬉しい。然し夫  
の仕送りが途切れて、仕方なしに親の里へ歸る  
のだから心配だ。夫は呉に居て長らく海軍の職  
工をして居たが戦争中は旅順の方に行つてゐた。  
戦争が濟んでから一旦歸つて來た。間もなくあ  
つちの方が金が儲かると云つて、又大連へ出稼  
に行つた。始めのうちは音信もあり、月々のも  
のも几帳面と送つて來たから好かつたが、此半  
歳許前から手紙も金も丸で來なくなつて仕舞  
つた。不實な性質ではないから、大丈夫だけ

ども、何時迄も遊んで食てゐる譯には行かない  
ので、安否のわかる迄は仕方がないから、里へ  
歸つて待てる積だ。

爺さんは蛸薬師も知らず、玩具にも興味がな  
いと見えて、始めのうちは只はいく返事丈  
してゐたが、旅順以後急に同情を催して、それ  
は大いに氣の毒だと云ひ出した。自分の子も戦  
争中兵隊にとられて、とうとう彼地で死んで仕  
舞つた。一體戦争は何の爲にするものか解ら  
ない。後で景氣でも好くなればだが、大事な子  
は殺される、物價は高くなる。こんな馬鹿氣た  
ものはない。世の好い時分に出稼ぎなどと云ふ  
ものはなかつた。みんな戦争の御蔭だ。何しろ  
信心が大切だ。生きて働いて居るに違ない。も  
う少し待つてゐれば屹度歸つて來る。——爺さ  
んはこんな事を云つて、頻りに女を慰めて居た。  
やがて汽車が留つたら、では御大事にと、女に  
挨拶をして元氣よく出て行つた。

爺さんに續いて下りたものが四人程あつたが、  
入れ易つて、乗つたのはたつた一人しかなく、急  
固から込み合つた客車でもなかつたのが、急に  
淋しくなつた。日の暮れた所爲かも知れない。  
驛夫が屋根をどしどし踏んで、上から灯の點い  
た洋燈を挿し込んで行く。三四郎は思ひ出した  
様に前の停車場で買つた辨當を食ひ出した。

車が動き出して二分も立つたらうと思ふ頃例  
の女はすうと立つて三四郎の横を通り越して車  
室の外へ出て行つた。此時女の帯の色が始めて  
三四郎の眼に這入つた。三四郎は鮎の煮浸しの



**UNIVERSITÉ  
DE GENÈVE**

FACULTÉ DES LETTRES

**EXAMENS D'ADMISSION  
2014**

**DEUXIÈME EXAMEN ÉCRIT: VERSION**

Faites une **traduction en français** du texte japonais ci-joint.

Vous disposez d'un dictionnaire japonais-français et d'un dictionnaire de kanji fournis par la Faculté.

**La Faculté fournit les dictionnaires.  
Vous n'êtes pas autorisé(e) à apporter votre dictionnaire personnel à l'examen.**

## 6課 お花見は南から北へ

日本では、4月に新学期が始まりますので、あちこちで入学式が行われます。東京では、ちょうどそのころサクラの花が満開になります。上野公園をはじめ、あちこちのサクラの名所は、お花見の人でにぎやかになります。サクラの下で、お弁当を食べたり、パーティーをする人も多いです。夜になると、ちょうちんをたくさん並べて「夜桜」見物をします。これも大へんきれいです。

サクラの花は、咲いてから7日目には、もう散ってしまいます。サクラの花が30パーセントぐらい咲いた時を「三分咲き」、50パーセントの時を「五分咲き」、100パーセントの時を「満開」と言います。1本の木で、最初の花が咲いて、約10日で満開となり、2週間目ごろには、ほとんど全部散ってしまいます。ですから、サクラの見ごろは、365日の中で、たった7日間ぐらいの短さです。それで、「サクラの花は、パッと咲いて、パッと散る」とか、「花の命は短い」とか、言われます。

日本の国土は、九州から北海道まで、南北に細長いです。南と北で、

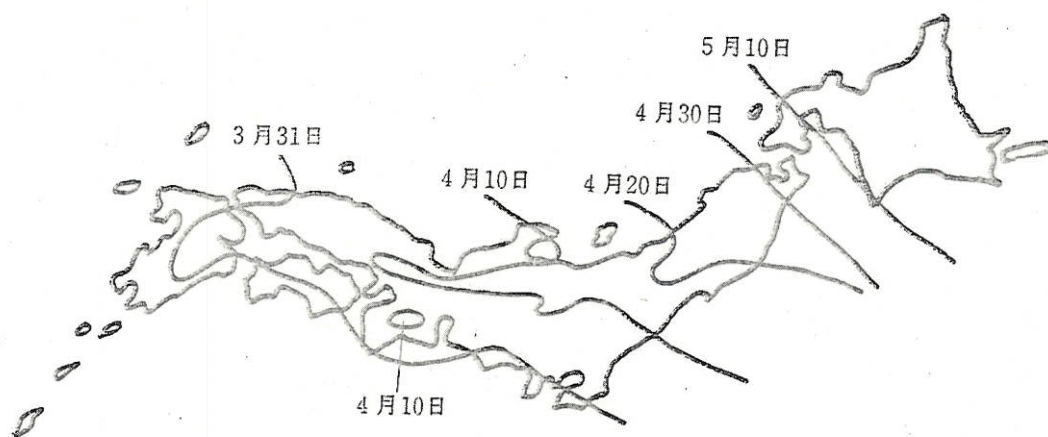


## 6課 お花見は南から北へ

気温や天候が、ずいぶん違います。4月の平均気温で比べると、おきなわで21度、かごしまで16.1度、東京で13.9度、さっぽろで6.2度です。11月の平均気温では、おきなわでは、21.3度で、かごしま14.3度、東京12.3度、さっぽろ4度です。11月のおきなわの気温は、さっぽろの8月と同じです。

日本の南と北では、こんなに気温が違いますから、サクラの咲く時期も、かなり差があります。南から北へ行けば行くほど、おそくなります。いろいろな種類のサクラの木の中で、「ソメイヨシノザクラ」が、代表的です。花が大きくて、葉が少なく、とてもきれいなので、日本中にうえられています。

お花見の期間は、1か所では短いですが、日本全国では南から北までかなり長いです。1月のおきなわから5月のさっぽろまで、4か月も咲いています。下の地図どおりに南から北へサクラの花をおいかけ旅行すれば、数か月もお花見が楽しめます。また秋の紅葉はサクラと反対に北から南へと動きます。このように日本は国土がせまいですが、1年中、季節の変化があって、お花見や紅葉などが楽しめます。





**UNIVERSITÉ  
DE GENÈVE**

FACULTÉ DES LETTRES

**EXAMENS D'ADMISSION  
2006**

**DEUXIÈME EXAMEN ÉCRIT: VERSION**

Faites une **traduction en français** du texte japonais ci-joint.

Vous disposez d'un dictionnaire japonais/français et d'un dictionnaire de français fournis par la Faculté.

**La Faculté fournit les dictionnaires.  
Vous n'êtes pas autorisé(e) à apporter votre dictionnaire personnel à l'examen.**

## 三四郎

うとくとして眼が覺めると女は何時の間に  
か、隣の爺さんと話を始めてゐる。此爺さんは  
慥かに前の前の驛から乗つた田舎者である。發  
車間際に頓狂な聲を出して、馳け込んで来て、  
いきなり肌を抜いだと思つたら脊中に御灸の痕  
が一杯あつたので、三四郎の記憶に残つてゐる。  
爺さんが汗を拭いて、肌を入れて、女の隣りに  
腰を懸けた迄よく注意して見てゐた位である。

女とは京都からの相乗である。乗つた時から  
三四郎の眼に着いた。第一色が黒い。三四郎は  
九州から山陽線に移つて、段々京大阪へ近付い  
てくるうちに、女の色が次第に白くなるので何  
時の間にか故郷を遠退く様な憐れを感じてゐた。  
それで此女が車室に這入つて来た時は、何とな  
く異性の味方を得た心持がした。此女の色は實  
際九州色であつた。

三輪田の御光さんと同じ色である。國を立つ  
間際迄は、お光さんは、うるさい女であつた。  
傍を離れるのが大いに難有かつた。けれども、  
斯うして見ると、御光さんの様なのも決して悪

くはない。

唯顔立から云ふと、此女の方が餘程上等であ  
る。口に締りがある。眼が判明してゐる。額が  
御光さんの様にだつ廣くない。何となく好い  
心持に出来上つてゐる。それで三四郎は五分に  
一度位は眼を上げて女の方を見てゐた。時々  
女と自分の眼が行き中る事もあつた。爺さんが  
女の隣へ腰を掛けた時などは、尤も注意して、  
出来る丈長い間、女の様子を見てゐた。其時女  
はにこりと笑つて、さあ御掛と云つて爺さんに  
席を譲つてゐた。夫からしばらくして、三四郎  
は眠くなつて寐て仕舞つたのである。

其寐てゐる間に女と爺さんは懇意になつて話  
を始めたものと見える。眼を開けた三四郎は黙  
つて二人の話を聞いて居た。女はこんな事を云  
ふ。

小供の玩具は矢張廣島より京都の方が安くつ  
て善いものがある。京都で一寸用があつて下り  
た序に、蛸薬師の傍で玩具を買つて来た。久し  
振で國へ歸つて小供に逢ふのは嬉しい。然し夫  
の仕送りも途切れて、仕方なしに親の里へ歸る  
のだから心配だ。夫は呉に居て長らく海軍の職  
工をして居たが戦争中は旅順の方に行つてゐた。  
戦争が濟んでから一旦歸つて来た。間もなくあ  
つちの方が金が儲かると云つて、又大連へ出稼  
に行つた。始めのうちは音信もあり、月々のも  
のも几帳面と送つて来たから好かつたが、此半  
歳許前から手紙も金も丸で來なくなつて仕舞  
つた。不實な性質ではないから、大丈夫だけれ

ども、何時迄も遊んで食てゐる譯には行かない  
ので、安否のわかる迄は仕方がないから、里へ  
歸つて待てゐる積だ。

爺さんは蛸薬師も知らず、玩具にも興味がな  
いと見えて、始めのうちは只はいく返事丈  
してゐたが、旅順以後急に同情を催して、それ  
は大いに氣の毒だと云ひ出した。自分の子も戦  
争中兵隊にとられて、とうく彼地で死んで仕  
舞つた。一體戦争は何の爲にするものか解ら  
ない。後で景氣でも好くなればだが、大事な子  
は殺される、物價は高くなる。こんな馬鹿氣た  
ものはない。世の好い時分に出稼ぎなどと云ふ  
ものはなかつた。みんな戦争の御蔭だ。何しろ  
信心が大切だ。生きて働いて居るに違ない。も  
う少し待つてゐれば屹度歸つて来る。——爺さ  
んはこんな事を云つて、頻りに女を慰めて居た。  
やがて汽車が留つたら、では御大事にと、女に  
挨拶をして元氣よく出て行つた。

爺さんに續いて下りたものが四人程あつたが、  
入れ易つて、乗つたのはたつた一人しかない。  
固から込み合つた客車でもなかつたのが、急に  
淋しくなつた。日の暮れた所爲かも知れない。  
驛夫が屋根をどしく踏んで、上から灯の點い  
た洋燈を挿し込んで行く。三四郎は思ひ出した  
様に前の停車場で買った辨當を食ひ出した。

車が動き出して二分も立つたらうと思ふ頃例  
の女はすうと立つて三四郎の横を通り越して車  
室の外へ出て行つた。此時女の帯の色が始めて  
三四郎の眼に這入つた。三四郎は鮎の煮浸しの